

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 佐伯鶴城 高等学校	
学校教育目標	地域の核となり、持続可能な社会の担い手として活躍する人材の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・「地域の核となり、持続可能な社会の担い手として活躍する人材の育成」という学校教育目標の下、3つの中期目標と4つの重点目標が明確に設定されている。 ・探究型授業構築のため、教員の探究的な授業場面を動画に残して共有を図る等、取組が明確化されている。	・引き続き学校教育目標の実現に全教職員で努めていく。 ・探究型授業の構築については、学校設定科目RIASで得た知見を活用し、SSHと教科を連動させた授業改善にさらに努めていく。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・重点目標を達成するために数値的な達成指標と、具体的な取組指標が適切に設定されている。 ・取組指標に実施時期や方法、結果のフィードバック等の記載があり、PDCAサイクルを明確に意識した取組が伺える。 ・授業改善の好事例集作成の取組は良いアイデアであるため、学校評価の取組指標等に入れることが望まれる。	・本校で実施した「探究型授業」の事例収集とその共有を推進し、授業改善の取組指標の一つとしていく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学習習慣等実態調査の「英語学習の重要性の認識」や「学校の授業以外の1日の学習時間」は全県と比較してかなり高い数値である。 ・保護者に対してもアンケートを実施して、意見や要望の把握に努めている。	・今後も生徒や保護者を対象とした各種アンケートの実施により、ニーズを的確に把握して教育活動に反映させる。 ・学校ホームページや各種学校便り等により、広報活動を活性化させる。 ・地域との連携については、引き続き推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・各教員が探究的な学習活動とは何かを定義し、探究的な場面を授業の中で作る取組を始めている。 ・探究的な学習活動を動画を含めて事例として収集し、好事例集としてまとめるための様式が制作されている。 ・授業デザインシートや報告書の作成と合わせて、授業活性化の取組が同われ、今後の成果が期待される。 ・生成AIについては、まずは教員が試用することから取組が始まっており、その積極性は評価に値する。 ・授業改善スクールプランの検証指標については、抽象的ではなく具体的な検証指標の設定が望まれる。 ・生徒が充実感を得る授業が明確にあるため、学校全体で生徒の意欲喚起につながる授業構築が望まれる。 ・授業の板書をより丁寧に正確に行うことが望まれる。	・互見授業や授業研究会の実施等により、授業力の向上、授業改善を図っていく。 ・シラバスの活用方法の工夫改善を通して、指導と評価の一体化を促進する。 ・授業改善スクールプランの検証指標については、より具体的な指標の設定を行う。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・毎週金曜日の終礼時10分を利用して「人間関係づくりプログラム」を実施したり、HRAの50分を利用してアサーショントレーニングを実施したりする等、生徒同士の良好な人間関係づくり、自己・他者尊重に取り組んでいることは、いじめ・不登校の未然防止の一環として評価できる。	・個々の生徒の情報について、情報共有を行い困りを抱えた生徒への早期対応を行うための会議を毎週実施する。 ・人間関係づくりプログラムについては、引き続き実施する。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・校長が教職員に対して、日々危険箇所の洗い出し、破損箇所の報告を求める等、安全管理への意識が高い。 ・老朽化に伴い、使用できなくなった施設・設備は危険であるため、事故防止の観点から速やかな撤去が望まれる。 ・緊急災害時の避難場所としての体育館利用については、市役所と連携を取り、マニュアル等の確認が望まれる。	・校内の危険箇所については、引き続き日常的に安全点検を行う。 ・避難場所としてのマニュアル作りについては、防災コーディネーターを中心に検討する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・教員アンケートの結果、働き方改革の支障となるものとして「部活動」「分掌業務」が上位にある。 ・業務が特定の年齢層に偏らない見直し等が必要であり、早期の対策が望まれる。	・業務の適正化については、早急に見直しを行う。
	学校課題の解決に向けた取組等	○生徒の主体性の育成	・生徒を「主権者」として育てるために「公共」等で知識を教えるだけでなく、学校全体の教育活動の取組が必要である。 ・生徒からの進路相談や授業中の質問に対して、教員が授業後の対応も含めて誠実に答えている。 ・校則等については何も変わらない状態が続いていると感じている生徒もおり、また日本の若者の自己有用感や自己効用感の低さが指摘されているので、生徒の主体性育成のために一層の充実した取組が期待される。 ・LGBTQの時代を見据え「第3の制服」を検討していることは評価できるため、早期の実現が期待される。	・LGBTQの時代を見据えた「第3の制服」の検討を進める。 ・主権者教育、校則の見直し等、生徒の主体性育成のための取組を促進する。
総合評価	<p>・文理分け隔てなくSSHの取組を実施している状況は、教科横断的・文理融合という最近のトレンドに沿うものとして高く評価できる。実際に生徒自身もその意義や効果を実感しており、今後さらなる展開と発展が期待できる。</p> <p>・教科によって授業における理解度が懸念されるデータもあるため、互見授業や生徒アンケート等を活用し、全ての教科でその教科の素晴らしさや学ぶことの楽しさを伝えていただきたい。</p> <p>・学校生活実態調査の結果が7月期から12月期にかけて上昇している項目が多く、教育活動の充実が伺える。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・SSHと授業を連動させることで、探究的な学習活動による生徒の思考力・判断力・表現力の向上が見られている。次年度も引き続き深い学びや探究活動につながる授業改善を促進する。</p> <p>・地域の核となるリーダーを育成するため、今後も地元産業等地域との連携や地域人材の活用を進める。また小中学校との連携を推進する。</p> <p>・教育相談体制及び防災教育をさらに充実させ、安心安全な学校生活を保障する。</p> <p>・働き方改革によるワーク・ライフ・バランスを推進する。</p>			